

**問1** 北海道の知床や鹿児島県の屋久島など、貴重な自然環境が残る地域では、観察用のデッキや木道を設置する取り組みが行われています。観光客に地域の自然を体験してもら一方で、踏みつけなどによって自然が破壊されることを防ぎ、環境の保全と観光を両立させるこのような仕組みを何と呼びますか。 (2022年 沖縄公立入試 類似)

1. エコツーリズム                      2. グリーンツーリズム                      3. バリアフリーツーリズム                      4. マスツーリズム

**問2** 北海道の釧路周辺における夏の気候について、統計資料では「8月の平均気温が約18度と低く、日照時間も短い」という特徴が示されることがあります。このような気候になる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬公立入試 類似)

1. 暖流である日本海流（黒潮）が湿った空気を運び、大量の降雨をもたらすため。                      2. 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。                      3. 冬の季節風が山脈を越えて吹き下ろし、フェーン現象が発生して乾燥するため。                      4. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風「やませ」が、日本海側に低温をもたらすため。

**問3** 北海道と本州の交通網の整備とその地理的背景について説明した文として、最も適切なものを選択してください。 (2018年 長野県公立入試 類似)

1. 津軽海峡の海底に青函トンネルを建設することで、青森県と北海道の間の安定した鉄道輸送が可能になった。                      2. 宗谷海峡に巨大な橋を架けることで、北海道とロシアを陸路で結び、農作物の輸出を拡大させた。                      3. 関門トンネルを抜けた新幹線が、岩手県から直接北海道へ乗り入れることで移動時間を大幅に短縮した。                      4. 津軽海峡を横断する高速道路専用の橋を建設し、青森県から秋田県への自動車移動を効率化させた。

**問4** 北海道の県庁所在地である札幌市の気候の特徴を説明した文として、統計データに基づき正しく述べたものを次の中から選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)

1. 1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。                      2. 1年を通じて気温の変化が小さく、1月の平均気温も15度を上回り、夏に極めて多い降水量が見られる。                      3. 1月の平均気温は5度前後であり、夏には梅雨の影響で雨が非常に多いが、冬は乾燥して晴天が続く。                      4. 夏は非常に高温になる一方で、冬の降水量が極端に少なく、年間降水量が1000mmを下回る乾燥した気候である。

**問5** 北海道の内陸部に位置する地域の気候の特徴について、ある地点の統計を確認したところ、1月の平均気温がマイナス20度近くまで下がり、年間のすべての月において降水量が100mm未満という非常に少ない数値を示していました。この地域の気候について正しく述べたものはどれですか。 (2019年 富山県公立入試 類似)

1. 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。                      2. 対馬海流の影響を強く受けるため、冬に雪が多く、年間降水量が2000mmを超える。                      3. 夏に「やませ」と呼ばれる冷たい北東風の影響を強く受け、夏でも霧が発生しやすい。                      4. 季節風の影響で冬の降水量は多いが、夏は太平洋高気圧の影響で乾燥する。

**問6** 2018年の統計において、畑作の農家一戸あたりの耕地面積を比較すると、全国平均が5万平方メートル未満であるのに対し、北海道は約20万から25万平方メートルという圧倒的に高い数値を示しています。このような広大な土地で効率よく耕作を行うために、北海道の農業で一般的に取り入れられている手法として最も適切なものはどれですか。 (2021年 岩手県公立入試 類似)

1. 豊富な労働力を一箇所に集中させ、手作業によるきめ細かな管理を行う手法                      2. ビニールハウスなどの施設を大規模に建設し、一年中同じ作物を育てる温室栽培の手法                      3. 大型の機械を導入し、少ない人数でも広範囲の作業を短時間でこなす手法                      4. 土地を細かく区分けし、多種類の作物を少量ずつ組み合わせる栽培する手法

**問7** 十勝平野の畑作では、同じ土地で種類の異なる複数の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」が行われています。このような栽培方法をとる主な目的として、最も適切な理由を説明したものはどれですか。 (2022年 和歌山公立入試 類似)

1. 特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。                      2. 年ごとの農作物の市場価格の変動に合わせて、最も収益の高い作物だけを育てるため。                      3. 農機の稼働時間を減らすことで、大規模経営における燃料費などのコストを削減するため。                      4. 北海道の短い夏において、複数の作物を同時に収穫して出荷作業の効率を上げるため。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>エコツーリズム</b>	地域の自然環境や文化を損なうことなく、その魅力を観光客に伝える仕組みです。単に観光客を増やして利益を得ることを目的とするのではなく、木道の設置によって植生の破壊を防ぐなど、自然の保全を前提としながら活用を図る点が特徴です。
問2	<b>答え 2</b> <b>寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。</b>	北海道の太平洋沿岸には寒流の千島海流（親潮）が流れています。夏、この冷たい海面上に南からの暖かく湿った空気が流れ込むと、空気が冷やされて大規模な濃霧が発生します。この霧がカーテンのような役割をして太陽の光を遮るため、沿岸部では日照時間が極端に短くなり、気温が上がらない「夏でも涼しい」気候が形成されます。
問3	<b>答え 1</b> <b>津軽海峡の海底に青函トンネルを建設することで、青森県と北海道の間の安定した鉄道輸送が可能になった。</b>	かつて本州と北海道の輸送は青函連絡船が主流でしたが、海上の悪天候による欠航が課題でした。これを解決するために、青森県と北海道の間の津軽海峡に青函トンネルが建設されました。これにより、本州からの玄関口である青森県を経由して、新幹線や貨物列車が年間を通じて安定して往来できるようになりました。
問4	<b>答え 1</b> <b>1月の平均気温が氷点下の約マイナス5度まで下がり、年間の降水量は各月100mmから150mm程度で推移する。</b>	札幌市の気候は、北国特有の寒冷な性質を持っています。気温の面では、1月の平均気温がマイナス5度付近まで低下する厳しい寒さが特徴です。降水量の面では、本州以南で見られるような梅雨や台風による極端な降水量の増加が少なく、年間を通じて各月100mmから150mm程度と、比較的安定した推移を見せるのが冷帯（亜寒帯）に属する地域の傾向です。
問5	<b>答え 1</b> <b>冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。</b>	北海道の内陸部は、海から遠く離れているために海による気温調節機能が働かず、放射冷却現象などの影響で冬の気温が極端に低くなります。また、周囲を山々に囲まれていることから、海からの湿った空気が入り込みにくく、日本海側などの沿岸部と比較しても年間降水量が少なくなるのが特徴です。
問6	<b>答え 3</b> <b>大型の機械を導入し、少ない人数でも広範囲の作業を短時間でこなす手法</b>	北海道は明治時代以降の開拓の歴史的背景から、一戸あたりの耕地面積が他都府県に比べて非常に広いという特徴があります。これほど広大な面積を家族などの少人数で管理するためには、トラクターやコンバインといった大型の機械による作業の効率化が不可欠です。これを大規模・機械化農業と呼び、労働力不足を補いながら高い生産性を実現しています。
問7	<b>答え 1</b> <b>特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。</b>	同じ土地で毎年同じ作物を栽培し続けると、土壌の養分が偏ったり、病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。十勝平野では、ジャガイモ、てんさい、豆類、小麦などの異なる作物を順番に植え替える「輪作」を行うことで、土壌の肥沃さを保ち、安定した収穫量を確保する工夫がなされています。